

会えないからこそ、
心の繋がりが大切だと思います。
出逢ってくれて、ありがとう☆

きずな新聞 かな(女川)



石巻赤十字病院の病棟支援で活動しました。
病棟看護師も被災し避難所生活なのに
「来てくれるそれだけで」
心強くてありがたいです」
と涙をうかべ話してくれました。
コロナ禍で「大変ですが心強い存在に
なれるような看護を心がけています。
笑顔で健康な生活が送れますように。」

長浜赤十字病院 中野敏子

石巻赤十字病院を拠点とし活動しました。
お腹の赤ちゃんを守りたい一心で
避難された妊婦さんにお会いし
「今を生きる」大切さ・
力強さと深い愛を感じました。
石巻・東北と聞く度にお会いした方を
思い出し胸が熱くなります。
笑顔で元氣にお過ごし下さい。

福岡赤十字病院 川口あかね



震災発生から2ヶ月後、
避難所を巡回している時に
「辛いのは自分だけではないから」と、
お互いを気遣う方々の姿が
印象に残っています。
毎年3月になると震災の事を職場で話し、
被災地への思いを忘れないようにしています。

今津赤十字病院 山口真由美

新聞のコーナー『ボケずに100歳』を読んで
感想を送って下さる方、
テレビの放送で『これいいね!』と
楽しみにしている方がいることを知り、
とても励みになっています。
有難うございます!いつか実際にお会いして、
楽しく『ボケずに100歳体操』
出来たら良いなと夢見ています。

きずな新聞 神山弓子(千葉)



2011年6月に石巻で活動しました。
緊張していましたが、みなさんが
快く私たち赤十字スタッフを受け入れてくれ、
安心したのと同時に逆に私も
パワーをもらいました。
今でも当時お会いした方の顔が
思い浮かびます。元氣かなあ。
ずっと思い続けています。

岡山県赤十字血液センター M



蛇田中学校を拠点に災害医療に従事した。
酷寒、停電、断水と過酷な中、
同校3年生の女生徒が校舎昇降口にて
兎のミルク・オムツを配る姿や、
同校校長先生が避難者へ声かけする姿は
目に焼き付いている。
瞬く間に10年経過しましたが「お元氣でしょうか」
どうぞご自愛ください。

葛飾赤十字産院 荒井瑞恒

2011年6月20日から6月22日まで、
雄勝地区雄心苑救護所で
地元保健師さんとの救護活動、
水浜仮設住宅、大須小、個人宅への
巡回診療に参加しました。
10年経過し、改善したこと、しないこと
色々あるかもしれませんが
石巻からの声に耳を傾けつづけます。

浜松赤十字病院 清野徳彦

震災の年も、その後も何度も
石巻に行かせていただきました。
悲しみをあらたにしつつ、その都度、
沢山のことを学ばせていただきました。
5年前の熊本地震でも、
石巻との絆を感じながら
乗り越えることができました。
ありがとうございました。

熊本県赤十字血液センター 井清司

震災直後、夜を徹して石巻市に向かい
蛇田中学校の校庭に救護所を設営し
救護活動を行いました。
私が宮城出身であることをお伝えすると
「あんだの家も大変だろうにご苦労さまね」
と励まされ、そのお姿に宮城県人としての
誇りを感じました。
美しく誇り高き石巻市を応援しています。

成田赤十字病院 三田雅嘉



九州から3、4、5月に救護活動に参加した
赤十字職員です。あの時、救急車で
石巻赤十字病院に搬送されたご夫婦から
「赤十字マークを見て安心しました」と言われ、
赤十字の使命を強く感じたことを
今でも忘れません。
皆さんが笑顔で過ごされていることを
願っています。

大分県赤十字血液センター 毛利



コロナ禍で思うように石巻に行けませんが、
お会いしたお一人お一人の顔を
思い出しています。
ただでさえ自由に人に会えない今、
皆さんはどうされているのかと気になります。
またお会いできる時を楽しみに、
私もがんばります。
お元氣でいてくださいね。

きずな新聞 あさこ(愛知)

当時避難所で点滴や薬を届けるなど
医療的なサポートをしました。
お一人お一人との出会いは
ほんのわずかでしたが、
お互いを思いやる気持ちを感じました。
冬の寒さが身にしみる頃、皆様を
思いだします。もうすぐ春が来るように、
皆様のお気持ちが段々とあたたかになるといいですね。

日赤医療センター 柴田



もう10年になるんですね。
新型コロナのため、
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、
また会いにいけますね。
時間が経っても悲しいお気持ちは
変わらないと思いますが、少しでも
元氣出してもらえると嬉しいですよ。
新聞配りにいったらお話ししよう。

きずな新聞 佐藤俊一/しゅん(東京都)

震災当時、私は15歳・静岡県在住で、
テレビでみた映像が現実と思えませんでした。
あれから10年、今は石巻の日赤職員として
社会人になり3年が経ちます。
きずな新聞のボランティア活動にも
参加してきました。コロナ禍の今でも、
人の心は繋がれます。
どうか健康第一で「お過ごしください」。

石巻赤十字病院 森大樹



10年間、
たくさんの涙と笑顔を皆さんと共有しました。
直接お会いした方、
紙面を通して出会ってくださった方、
すべての出会いに感謝です。
11年目のこれからも、共に歩んでいきたいと思います。
あの日を生き抜き、
そして今日まで生きててくれて、ありがとう。

きずな新聞 岩元暁子/あき(東京/石巻)